

Hokkaido youth sessions GREENDAY2014

北海道の若者たちが、「これから」を考える二日間が終わりました。

5月10・11日の2日間開催されたGREENDAY2014。約2ヶ月前に実行委員会を発足させ、セッションだけではなく、食事や会場にもこだわりながら、作り込みを進めてきました。その結果、2日間で延べ約160人が参加。北海道各地の20代を中心とした若者がつながり、そして学びました。参加者からは、「新しい考え方を知った」「刺激的な出会いがあった」「今まで悩んでいたことが解決された」などの声をいただきました。これからの社会を担っていく若者と社会の先輩が一堂に会し、未来について話す貴重な場となったのではないかと思います。



セッション内容 (一部抜粋)

「ミニ四駆づくりから学ぶPDCAサイクル」
講師：草野竹史氏(NPO法人ezorock 代表)

「人生の計画とお金の話」
講師：小川和哉氏(FP&プライダルフオイス Mクリニック 代表)

「この街のために働く」
講師：北川憲司氏(札幌市観光文化局コンベンション部観光企画課長)

GREENDAYとは・・・

北海道の青年層が集まり、「これから」をテーマとした参加型のフォーラム。全国から集まった様々な分野のゲストによる「12」の分科会から成り立つ。ezorock主催で、開催は今年で2回目。



オーガニックファーム

じゃがいもづくり
スタートしました!

今年もRSRで配布するじゃがいもづくりがスタートしました。今年作付面積を増やし、昨年の約5倍に。そこに堆肥を撒き、種いもを植えました。種いもからは芽が出始め、すくすくと成長している様子が見て取れます。8月の収穫までに隔週でボランティアツアーを実施していますので、興味のある方はぜひご参加ください!



ポロクル

50名のクルーが
仲間になりました!

5月1日、ポロクルは例年より少し遅めのスタートを切りました。しかし活動するクルーはすでに50名に上り、毎日自転車のメンテナンスや移動に汗を流しています。今は現場の運営がメインですが、これからはまちなかの自転車課題解決に向けて、自転車の活用方法やルール・マナー改善にも取り組んでいきます。



ふくしまキッズ

大沼での春の活動が
終了しました!

3/25~4/2に七飯町大沼にて春の活動を行いました。参加した福島県在住の子どもは34名、ボランティアは21名でした。今回は子ども達が薪割りや、その薪でお湯を沸かして入るドラム缶風呂などの野外アクティビティに挑戦し、笑顔あふれる活動になりました。



代表の小言

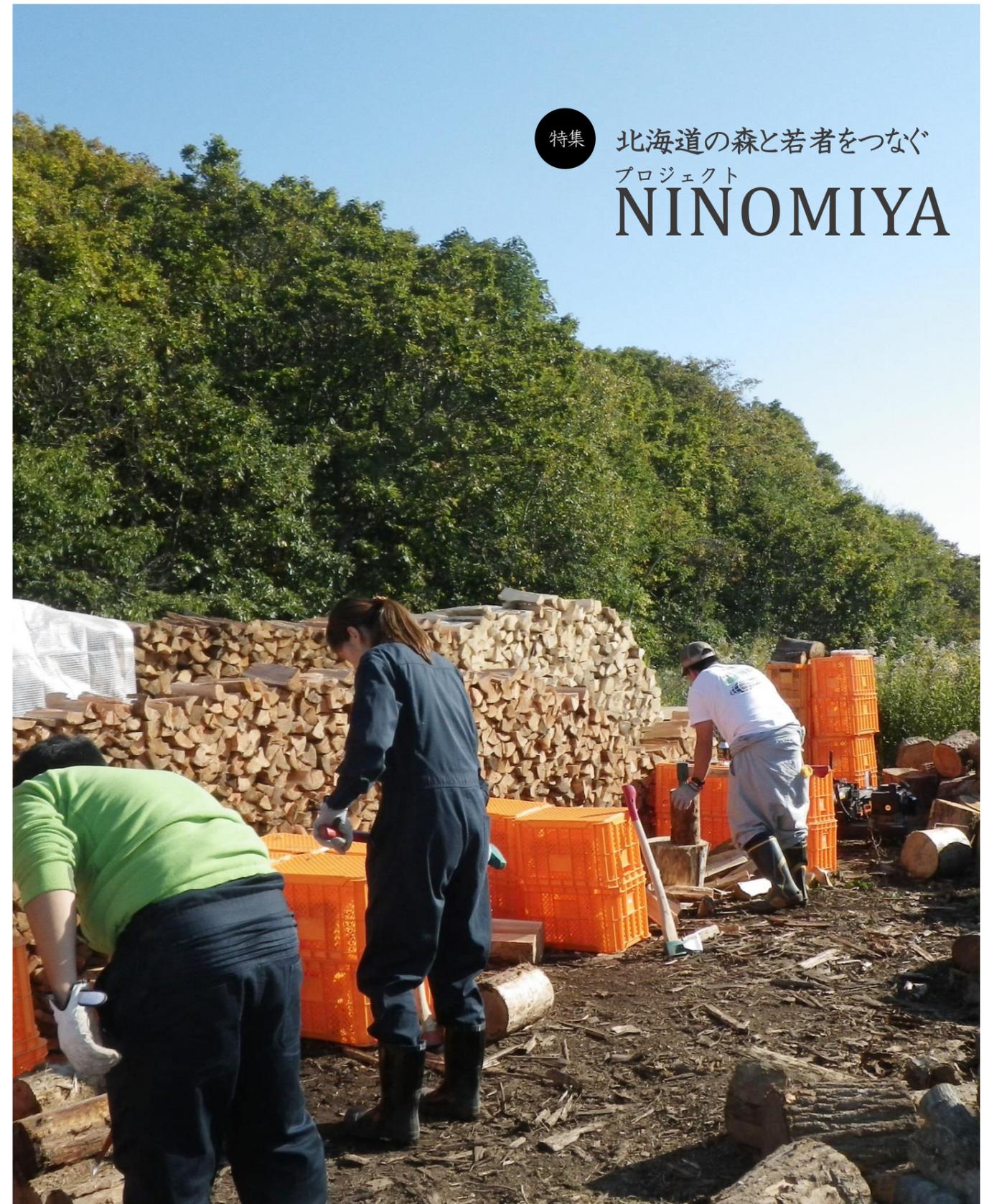
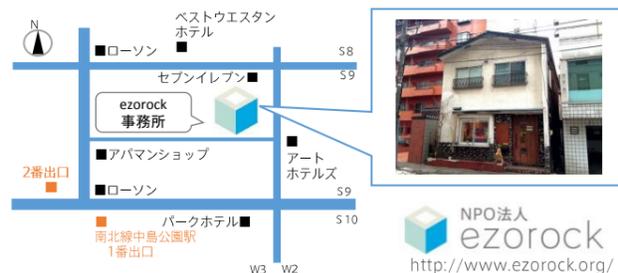
社会人1年生こそ、
活動を続けよう!

先日、転職支援や人材紹介などのお仕事を長くされている方と飲んでいたときに「学生から社会人になったときにボランティアを続ける必要がある」というお話を聞きました。私は、「入社年間は、仕事に慣れるまで難しいのでは?」とお聞きしたところ「いやいや、草野さん。年齢が上がれば責任も重くなるし、決して余裕がでるわけではない。むしろ、早い段階でやらないと!」私は、ふんと思いました。学生のうちは一生懸命やっていた人が、社会人になった途端にNPO活動から距離を置く姿をたくさん見ました。「忙しいだろうから仕方がない。余裕が出てから声をかけよう...」そう考えていました。

けれども、実際は違うんですね。仕事に就けば、忙しいし、やることは常にある。さらに年齢が上がれば責任も重くなってくるもの。そう考えると、入社した1年目だからこそ、サードブレイスとしてNPOに参加することには、大きな価値がありますね。

社会人の皆さん。まずは薪割りにも参加して、いつもと違う時間を過ごしてみませんか?

草野 竹史



特集 北海道の森と若者をつなぐ
プロジェクト
NINOMIYA

今月の写真

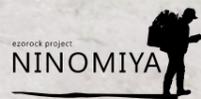
石狩の森から運んだ未利用材で、薪割りをしている様子



北海道の森と若者をつなぐ

プロジェクト NINOMIYA

北海道の森に眠る未利用の木材(未利用材)の有効活用をとおして、都市部の若者と森林をつなげるプロジェクト。未利用材の回収、薪への加工、札幌市内の店舗への販売まで行う。そしてその売り上げの一部は、若者のスキルアップのための講座や勉強会などの費用となる。



■活動のはじまり

2011年3月、一軒家に移動した事務所に、薪ストーブがきました。CRAFTMANという名の、札幌の厳しい冬を過ごすための薪ストーブ。それが、ezorockで薪の活動がはじまったきっかけだったように思います。

そのひと冬は、購入したペレットを燃料にしていました。しかし、僕らの周りには豊富な森林資源があり、燃料は自分たちで作れるのではないかと、自分たちのエネルギーは近くの森から自分たちで作った森からできた薪を使えたらいいなと、ぼんやり思っていました。

2011年の夏、そこへ公益財団法人 北海道環境財団の山本泰志さんが、森に眠る未利用材を利用した事業へ誘って下さいました。そこで、森や木材の知識、チェーンソーや斧などの道具を使う技術を、一から手取り足取り教えていただきました。その活動の中で、徐々に“少しでも森のことを多くの若者に知ってもらいたい”、“行動につなげたい”という想いが募り、本格的な活動への一歩を踏み出します。

しかし最初の1年間は、ezorock主体の活動はほとんどありませんでした。森林ボランティアというと、どうしても植樹や伐採の知識・技術が必要となる作業となってしまう、知識や技術のないわたしたち若者は、他団体のお手伝いしかできませんでした。

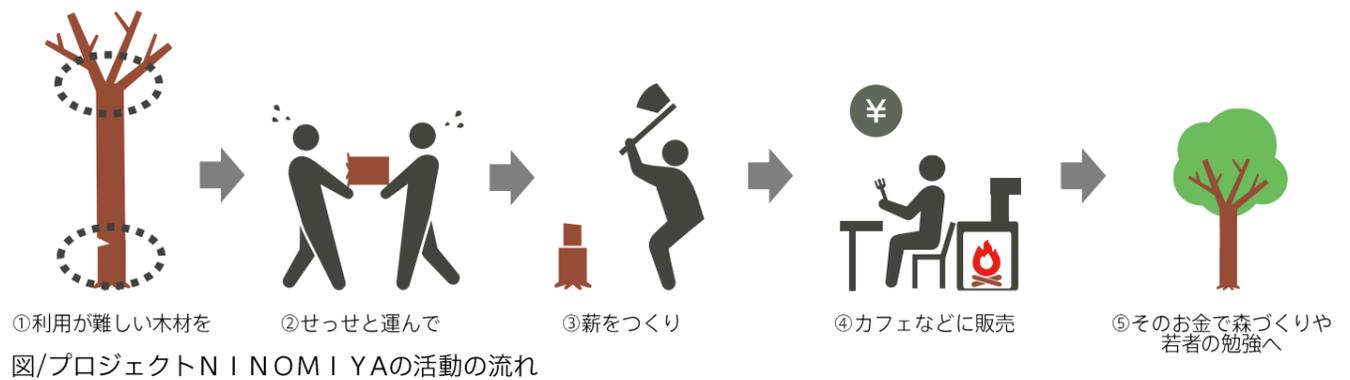
■若者が中心の活動へ

どうしたら、森林に興味のある“若者”が中心となる活動が作れるだろう。

悩みながら活動をしていく中で、『薪を割って販売し、そのお金を自分たちの勉強に使う』という方法を思いつきました。薪を飲食店などに販売したお金で、森林に関する本や会議の進め方などを学ぶ本を買い、また講師を呼び、講座を受ける。これにより、現代で遠く離れているように見える、“森”と“若者”の間に直接的な関係をつくりました。

若者が薪作りを通して、自分自身の成長につなげる資金を調達する。社会や森について知る若者が増える。都市部のお店では化石燃料だけではなく、森林資源をエネルギーにできる。を通して、お店が若者の成長を応援することもできる。これが、2013年度よりはじまった『プロジェクトNINOMIYA』の活動です。薪を学問につなげるところが二宮金次郎の逸話と重なるため、プロジェクト名をNINOMIYAと名付けました。

2014年現在は、毎週ボランティアが集まり、斧を使った作業の安全指導のあと、実際に薪を割り、パネルをつかって森林や未利用材に関してのレクチャーを行っています。参加するボランティアは徐々に増えており、元々森に関心がない、森に行ったことがないという若者も集まるようになり、さらには女性の参加も増えてきました。



■未利用材を次世代につなぐ

一般に、木材を生産する際に出る尺が短い材や、曲がり激しい材、根の部分や枝に近い材のことを「未利用材」と呼びます。木材としての品質には問題ないのですが、採算の問題で山林から搬出されず山に放置されています。

それは時間をかけて分解され、森へ戻ります。この循環とは、とても大切なことで、無駄にはなりません。ですが、必ずしも全部が森へ戻る必要はありません。わたしたちは、この未利用材を使用しています。

木材の成長には30年～80年という長い時間が必要になります。“木を植え、育てた人の想いを無駄にたくない”という想いと、“次世代に森林資源を残していきたい”という想いを込めて、森の管理に携わっています。

■NINOMIYAに関わる人たち

NINOMIYAは若者のボランティアを中心に活動していますが、その裏では多くの方が関わっています。わたしたちが薪割りできるサイズ(玉材)までチェーンソーで加工して下さる薪ストーブユーザー(モニター)のみなさん。未利用材を提供して下さる森林組合のみなさん。そして、NINOMIYAでつくった薪を購入して下さる飲食店などのみなさん。

活動は少しずつ根付いてきましたが、より多くの都市部の若者と森林、そしてそれを支える人々を繋げることができるよう、これからもNINOMIYAは進化を続けます。

文/大熊啓介(NINOMIYAコーディネーター)

▼薪の販売・モニター登録・材の提供についてのお問い合わせはこちら▼
ninomiya@ezorock.org(担当:大熊)



ボランティアスタッフの声

池島 元気さん(20) **薪から見た山林の問題を伝えていきたい**

NINOMIYAの魅力は、自然の中で黙々と単純作業に夢中になれるところです。初めて参加した方も薪が割れるようになってくると、いつの間にか夢中になって薪を割り始め、心地良さを感じています。

これからは『薪から見た山林の問題』が伝わる活動にしていきたいと思い、参加者に山林の豆知識を紹介しています。また、焚火でいもを焼いたり、お湯を沸かしてコーヒーを飲んだりすることで、自然の中で活動することの楽しさも伝えていきたいです。

太田 遥さん(20) **自然と触れ合い、視野を広げたい**

TVでしか見たことがない薪割りを、やってみたいという単純な好奇心からこの活動に参加しました。薪割りをしたり自然と触れ合うことで、心が安らいだり、何か自分の中の視野が広がったりするのかなという期待もあります。

この活動の中で、森の成り立ちや、今の生活に当たり前存在している「木」という材料の生産サイクルを少しずつ知り、「当たり前を当たり前と思わないこと」の大切さを感じています。

応援メッセージ

公益財団法人 北海道環境財団 山本 泰志さん **多様な価値を生み出す可能性を感じています**

薪に関するノウハウがほぼゼロだったezorockメンバーと、二人三脚で進める中で彼らが持つ「力」と「つたなさ」の両面をみつめてきました。同時に、様々な主体をつなぎ多様な付加価値を生み出していき、大きな可能性を感じてきました。

自分達の強みをさらに伸ばし、つたなさを謙虚に受けとめて補いながら、プロジェクトが展開されていくことを願っています。